

第 1 1 回臨時委員会会議録

教 育 長) 開会宣言

教 育 長) 会議成立の宣言

教 育 長) 会議録署名委員の指名（小石委員）

教 育 長) それでは、審議に入ります。日程第 1、専決報告第 1 7 号「芦屋市青少年問題協議会委員の委嘱について」を議題とします。提案説明を求めます。

社会教育部長) 〈議案資料に基づき概略説明〉

教 育 長) 説明が終わりました。質疑はございませんか。

これは、役員が交代されたということですね。

社会教育部長) はい、そうです。

教 育 長) 他に質疑はございませんか。

無いようですので、これをもって質疑を打ち切ります。

これより採決いたします。本案は、原案どおり承認することに御異議ございませんか。

〈異議なしの声〉

御異議なしと認めます。よって本案は承認されました。

〈専決報告第 1 7 号採決。結果、承認（出席委員全員賛成）〉

教 育 長) ここでお諮りいたします。報告第 9 号「平成 3 1 年度教育費予算概要要求について」及び報告第 1 1 号「第 2 9 回富田碎花賞受賞者及び受賞作の決定について」ですが、意思形成過程と位置付くものですので、非公開で行いたいと思いますが、御異議ございませんか。

〈異議なしの声〉

御異議なしと認めそのように決定いたします。

あわせて、審議の順番ですが、傍聴者は退席することになりますので、報告第 10 号の後に審議を行いたいと思いますが、ご異議ございませんか。

〈異議なしの声〉

御異議なしと認め、そのように決定いたします。

それでは、日程第 2、報告第 10 号「平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果について」を議題とします。提案説明を求めます。

学校教育課長） 〈議案資料に基づき概略説明〉

教 育 長 ） 説明が終わりました。質疑はございませんか。

8 ページの「教科の学習に対する子どもの意識の変化」において、本市と全国を見たとき、特に平成 30 年度は中学校においては理科が全国平均は 62.9％に対し、本市は 54.8％となっており、平成 27 年度の本市は 65.4％となっています。「勉強は大切」というところを見ても、平成 27 年度は全国平均に比べてまだ遜色ないのですが、平成 30 年度は、理科に関しては軒並み 10 ポイントほど差があるところもあり、市としての特徴があらわれています。小学校では、今年度のほうが逆に高いぐらいですね。中学校 3 年生は、平成 27 年度に奨学生での対象の子ですね。私学へ行く子が多いという芦屋市の特徴はありますので、27 年度、30 年度と比べると調査を受けている子が少し違うということはあると思いますが、他に何か考えられることはありますか。

学校教育課長） 同じ集団ではあります。

教 育 長) 中学校の 27 年度と 30 年度を比較すると同じ集団ではありませんか。

「勉強が好き」が平成 27 年度は 65.4% あったものが、今年度は 54.8% で、10 ポイントも下がっています。

越 野 委 員) 私も同じように感じていまして、学習環境に関する質問紙調査でも、数学や理科に関して、15、16 ページに並んでいるのですが、「算数・数学が大切だと思う」「理科の勉強が好きである」といった項目に関しても、やはり全国平均より軒並み低い感じで、中学生が理科や数学などにあまり興味を持てていないのかな、今後大人になった時の必要性を感じていない、授業が楽しめているのかなということが少し心配になりました。

小学校だと結構授業に自分が参加して発表する機会も多いですし、グループ学習なども多いかと思いますが、中学校では、受け身の学習が多いのでしょうか。中学校でもグループ学習は結構進んでいますか。

学校教育課長) 私が聞いているところでは、たしかに中学校の授業は理論が多い部分もありますが、だからといって前を見ている授業ばかりではなく、理科室で、グループで話し合いながら理解を深めていくという学習も取り入れています。しかしながら、結果だけ見ると確かに低いところがありますので、やり方自体はそれほど間違っていないと思いますけど、結果がこのようなっておりますので、それは真摯にとらえて、わかりやすい授業を考えていかないといけないと思います。

浅 井 委 員) テスト結果は悪くないわけですね。悪くないけれども、理科が好きというところが低くなっているのは、例えば 16 ペー

ジの４７番の質問事項で「観察や実験を行うことが好きである」という項目ですが、観察や実験が好きですね。小学生のときは理科が割と好きなのですね。でも、中学生になると座学が多くなり、余り楽しめない部分が見えているので、短い時間でも体験的にやっていくものが大事だと思います。決して成績は、結果としては悪くないのだから、より関心を持って取り組めるように少し工夫が必要なのではないかなと、ここから読み取れるのはそのように思いました。

学校教育課長） おっしゃるとおりだと思います。

木村委員） 毎回毎回、生徒に実験させる必要はなくて、先生が前で実験するという簡単な方法でもいいと思います。そういう機会を増やしていくと、意外とおもしろいなど、先生は今度、何を見せてくれるのだろうと興味を惹きつけることができると思います。そのあたりの授業の改善といいますか、研究を深めていただいたらと思います。

学校教育課長） 教師だけではなく、企業のゲストティーチャーを呼ぶなどして、教師実験みたいな形で前でやっていただき、普段、学校ではできないような実験を見せたときの反応は中学校でも見たことがあるのですが、そういった機会も、毎回毎回は難しいですが、取り入れることによって、興味を持ってやってみようかなというところにつながることもあると思いますので、また進めていけたらと思います。

小石委員） ４２番の質問項目にあります、自分の生活の中で活用できるかとか、学んだことを自分の生活につなげるという話ですが、理科などは重要ではないかなと思います。その割合が低いとこ

ろがすごく気になりました。これは教え方にもものすごく工夫が必要で、単に学ぶための学びではなくて、生活とか自分たちの日常生活の中にどう結びつけるかということがモチベーションにかなりつながっていくのではないかという気がしますね。

学校教育課長) ですから理科の授業で、きょうはこの実験をするよと言ってなんとなくするのではなく、どうしてもしないといけないような必然性を持たせるようにし、これってあなたたちの周りの中でどのようなことが考えられるかなというところまで広げていくとか、つまり、その単元の中で上手に導入していくことで、この教科書の内容につながっていくような指導のあり方を教師が勉強していかないといけないということがあります。

小 石 委 員) そういう工夫をしていただければ、自分たちの生活を見つめる目も肥えてくると思います。

浅 井 委 員) 数学もその通りだと思います。

木 村 委 員) こういうことを家庭の実験で確かめてみようということで、宿題としてレポートを出してもらおうとかいいと思います。危険な実験でなければ、家でいろいろ確かめてもらおうという課題を出すと、割と日常生活とつながってきます。例えば、お風呂の水を流したら、排水口にどちら回りに吸い込まれていくのかということだと地球の自転とかいろいろ関係あるわけですので、そのようなことを確認させるとかできます。また、冷蔵庫を使って水を凍らせると氷がどうなるかとか、いろいろ日常生活で面白いことがあると思いますので、そこをリンクさせるような宿題を出すと、この辺りの部分は改善されると思います。

学校教育部長) この点につきましては、9月の校長会でも既に指摘してお

りまして、それぞれの項目を見ますと年によって全国より上がったり下がったりしているところもあります。しかしながら、継続的に低いところもあります。その点については、学校でもその視点でもう一度指導の方法であるとかを考えていかないといけないと思っております。

委員の皆さんにおっしゃっていただいているようなことは、新学習指導要領にも通じるところがありますので、そういった視点で指導方法について見直しを行ってほしいということは指導していきたいと思います。

木 村 委 員) また、全般的に見ますと、発展的な問題の B 問題で、説明をするとか自分で推論をしていくところが、全国的に低いです。芦屋は全国よりも上だけれども、全国的に見るとそこは難しいということですね。多分アクティブラーニングなどを取り入れるのは、そういう力を伸ばすためにやるところがあると思うので、最終的にそこがどれだけ伸びるのかが、今の学習指導要領の中では、一番重要なのかなという感じはします。

自分で口頭で説明をしていくことや、自分で考えるというトレーニングを授業の中でやっていくことが必要だと思います。実際に何かを書かせて小論文のようなものを提出させるとか、スピーチをさせるとか、そういうことのトレーニングをできる限り時間を見つけて進めてみてはいいのではないかなと思いました。

小 石 委 員) 関連してですが、国語の記述式の解答を求める問題はとても難しいですね。そもそも、どのような採点にされているのでしょうか。

学校教育課長） 観点から言いまして、その部分が入っていれば丸という形となっておりま。

小 石 委 員 ） 保健室の先生が5項目ほどいろいろなことを言っている中で、何を言わんとしているかと聞いているわけですね。よくかんで食べたら唾液がたくさん出て、口の中をきれいに保つので虫歯になりにくい、ということだけをピックアップして書きましようと言っているわけですね。ここをどうやって採点するのかなと思いました。特にここを書いてほしいのだと書いてもらわないと点がないわけですね。

学校教育課長） そうですね。

小 石 委 員 ） どのように採点するのか難しいなと思ったのです。

学校教育部長） その問題に即応しているかわかりませんが、採点基準がありまして、難しい問題は、こういう言葉を使ってといった条件が幾つかあります。その条件がどういう形で満たされていれば丸にするのか、3つのうち2つならだめだという採点基準がありまして、それに従って丸かバツかになってしまいます。

小 石 委 員 ） では、結局丸かバツかということですね。

学校教育課長） 三角はないですね。

小 石 委 員 ） ですから、書くものは、ある意味ものすごく差が出てきてしまいますよね。かすっているものがぴったりしているのか、全然違うのかに全部振り分けられてしまうので、記述式問題は難しいなと思いました。

それと、自由に書くものはともかくとして、選択式の問題での、1番を選んだ者が何人、2番を選んだ者が何人とか、そういう回答分布みたいなものは手に入るのですか。誤答分布の分

析がすごく重要だと思います。正答よりも誤答がたくさんある場合には、なぜそういうことになるのかとか、あるいはそうではなくても相対的に誤答の選択肢を選ぶことが多い場合には、なぜそういうふうに子どもが書くのかという分析がものすごく大事だろうと思うのです。その辺りについては、丁寧にやっていただきたいと思います。

教 育 長) 言葉を皆が使い出したら、その言葉が常識化するように、ほとんどの人がその部分を誤答となるのであれば、逆にそれが正しくなることだってあります。学力学習状況調査は、子どもたちがどういうところで間違っているのかをよく検証する必要があると思います。

点数が悪いよりは良いほうが楽しみがあっていいのですが、点数に一喜一憂するのではなく、検証して何らかの形で反映できるようにしていくことが、各学校にとって必要なことです。

学校教育課長) 誤答につきましては、それを分析することによって、また見えてくるところもあると思いますので、その意識は少し弱かったかもしれませんので、ご意見を踏まえていきたいと思います。

越 野 委 員) これも学習環境調査ですが、去年は「自分には良いところがあると思う」が、「当てはまる」という項目しかなかったのか、とても低くて心配したのですが、選択肢が4項目になったのは今年からですかね。

浅 井 委 員) 1 番「当てはまる」だけの回答割合だと思います。

越 野 委 員) 1 番だけの判断だったのですね。2 番の「どちらかという」と当てはまる」まで含めると大体 8 割の子たちがつけているの

で、これだとそんなに心配することもないのかなと思いました。自信を持って、「当てはまる」と言える子はなかなか少ないと思います。日本人の気質もあってか、少し控え目なところもあるので、自分にはいいところがあると思っていても、「どちらかといえばある」にしておこうという子も多いと思います。

あとは読書でも、ふだん「1日1時間以上、読書をする」という子が小学校では全国平均よりも高かったり、「新聞をほぼ毎日読んでいる」という子も、特に小学校では全国と比べると倍ぐらいの多さで、中学校でも全国平均よりは多くなっていて、これは芦屋市が読書活動を推進している成果かなと思いました。

23番の「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」が、今年は小学校で全国平均よりもすごく高いのです。去年は小学校でも29.3%だったので、今の6年生がすごくボランティア活動をする機会があったのか、何か思い当たることなどありますか。

学校教育課長) 災害とかそういったところで、この間も精道小学校の子どもたちが市役所の前で募金活動することもありました。何か自分たちでできることはないかなと、そういう授業をしていますよということを各学校からよく聞きますので、このような子どもたちの自主的な学習は進めているのかなと感じております。

越 野 委 員) 子どもたちがいろいろな活動に参加することは、すごくいいことだなと思いました。

浅 井 委 員) 同じページの20番ですが「地域の行事に参加している」が大体いつも低いのですが、逆に他市はどういう形の地域行事への参加が多いのかなと思いました。芦屋でいえばお祭りや、

コミスクのスポーツ大会といったものが思い浮かぶのですが、
芦屋市はいつも低くて残念です。

教 育 長) 中学生の「トライやるアクション」がありますね。トライ
やるのお礼で地元に出るといったことを意識付けしていくと上
がると思いますが。

学校教育課長) そうですね。生徒がトライやるアクションで出るとか、吹
奏楽でやっていることも含めると、うまく結びつけていない
部分があるかもしれません。

小 石 委 員) おそらく、そういう地域活動のイメージに、かなりばらつ
きがあるのかもしれません。ですので、こういったことも該当
するなどときちんと示せば、たくさん丸がつくような気がしま
すね。

学校教育課長) 質問紙を書くに当たって、そういったところもイメージが
うまく湧かないかもしれませんね。

小 石 委 員) 問う側の思いがきちんと伝わっているかどうかというあた
りに、問題があるかもしれませんね。

教 育 長) 日ごろの活動や子ども会でごみ拾いをしてくれた際に、地
域ボランティアをやってくれてありがとうとか、何か一言言う
と意識が高まりますが、書く際に、子ども会で活動しているの
ではなどと言えば、誘導していることになるから言えません。
気がつかないものがあるかもしれません。

小 石 委 員) 先ほどの吹奏楽の活動も含めて、いろいろなところで子ど
もたちが頑張っていることが、学校教育の一部分とってしま
い、地域に対して何かをやっているとは思っていないのかもしれ
ません。

教 育 長) 広報あしやにも載せます。

学校教育課長) 全部ではありませんが10月1日号に載せます。

学校教育部長) 最近、広報での紙面は限られたものになっていますので、QRコードを掲載し、そこからホームページに飛んで、これが全部見ていただくことができるようになっております。

小 石 委 員) あとは、それぞれ学校の特徴がありますので、学校ごとにきちんと分析をしていただくことをお願いしたいと思います。

教 育 長) 他に質疑はございませんか。

無いようですので、これをもって質疑を打ち切ります。

それでは、平成30年度全国学力・学習状況調査の結果については、報告を受けたものといたします。

ただいまから非公開で審議いたしますので、関係者以外は退席願います。

〈非公開審議〉

教 育 長) 次に報告第9号「平成31年度教育費予算概算要求について」を議題とします。提案説明を求めます。

管 理 課 長) 〈議案資料に基づき概略説明〉

教 育 長) 説明が終わりました。質疑はございませんか。

今年は約10億円ほど増えていますが、根本的に違うのは新たに精道中学校の建てかえが十数億円入るからですね。

管 理 課 長) はい、施設整備です。

教 育 長) 山手中学校にかかっている費用は30年度も31年度も、それほど変わらないということですね。現在は校舎棟を建てており、次は特別教室棟や体育館棟の工事に入るので、その費用ですね。社会教育で5億円ほど減った分はあるのですが、精中

の事業費で増になっている部分があるということですね。ですから、実際の事業費に関しては、額はかなり大きいですが、教育環境の施設整備に使っているということとして理解すればよいですね。

管 理 課 長) そうですね。例年、特に大規模な工事等がなければ、教育費予算は約 50 億円ほどで推移していたものが、ここ 1、2 年、施設改修だけでかなり増えているということはありません。

教 育 長) 一般予算全体における教育予算の占める割合は、かつては 10%程度であったかと思いますが、今回は 14%程度になっていますね。

管 理 部 長) 13.8%です。

教 育 長) 一連の工事関係が一段落すると、また 40 億から 50 億円台に戻ってくるということですね。

管 理 部 長) 10%から 11%ぐらいですね。

教 育 長) 私は感覚的に 12%に戻ればいいかなというものがあります。

管 理 部 長) 31 年度の決算は 15%に届くかもしれないです。

教 育 長) 15%になりますか。これは今から変動することもあり得ますね。まだ芦屋市は 500 億円ぐらいの借金があり、財政健全化の問題がありますので、まだ見えないところがあります。

小 石 委 員) 資料の最後に、留守家庭の「ブランチ」と「拠点」という言葉がありますが、これはどういうものですか。

青少年育成課長) 拠点校とは今回、2 学級に増級するところでして、この部分について業務委託することによって、受け入れ枠を増やして

いるところです。ブランチというのは、今、施設整備ができない場所で、待機児童が出る可能性が高いところで待機児童が出た場合、移送方式で拠点校に移すというものです。

小 石 委 員) わかりました。

10 ページに「特色ある学校園づくり支援事業費」とありますが、これは具体的にはどのようなところに使われているのでしょうか。

学校教育課長) 基本的には学校を中心とした地域の中からゲストティーチャーとして学校に行きまして、そこで外部から入っていただき子どもたちに指導するというものです。幼稚園などではお茶会などをやっていますし、小学校でも活動していただいています。

学校教育部主幹) 例えば、戦争当時のお話を、地域の方にゲストティーチャーとしてお話しいただき、その方への謝金という形でお支払いすることなどがあります。

小 石 委 員) これは、それぞれの学校から申し出が出てくるものを認めていくというものでしょうか。

学校教育課長) 中学校で、キャリア教育として職業人に学ぶような感じで行っています。

小 石 委 員) わかりました。

浅 井 委 員) 歳入についてですが、6 ページの図書館の駐車場使用料が450 万円から600 万円に増えていますが、これは駐車場が増設されるのでしょうか。

図 書 館 長) 例年600 万円で予算計上していたのですが、今年度、大規模改修工事により駐車場の使用ができなくなる期間があるため、減額して計上していたために、来年度は例年どおりに戻る

ということです。現在の予定では、大規模改修工事は３月末までの予定となっています。

教 育 長) 工事が完了すれば今までどおり使えるのですね。

図 書 館 長) はい。

浅 井 委 員) わかりました。

小 石 委 員) 部活動支援員は、今年、国では５億円計上したという話を先日聞いてきたところですが、概算要求では来年度１２億円を要求しているようですね。どれくらい認められるかはわかりませんが、国の予算がついたときには、改めてその時点で予算を組むことになるのですか。

今、部活動の支援員に３人入っていただいていますね。それは全国で言う５億円のお金の一部が入っているわけですね。来年度もまた文科省が要求していて、どのぐらいになるかわかりませんが、例えばさらに５億円追加となると、単純計算で６人ぐらいになるのかなと思いました。その国の予算がつくかどうかはまだ先ですかね。

教 育 長) 市の来年度予算要求にはまだ上げられる段ではありません。県の方から、芦屋市の割当て人数等の連絡があり、市と県の負担割合を算定してしてからになります。

管 理 部 長) ７ページに県支出金とありますが、これは県からの補助金です。この中に、部活動指導員配置促進事業補助金として６７万円とあり、この金額は、国から県におりてきて、県が各市に配分している補助金となります。

小 石 委 員) 今年と同じ額が今のところ入っているのですね。この部分については、ぜひ、増えてほしいと思います。

教 育 長) 他に質疑はございませんか。

無いようですので、これをもって質疑を打ち切ります。

それでは、平成31年度教育費予算概算要求については、報告を受けたものとしたします。

教 育 長) それでは、報告第11号「第29回富田碎花賞受賞者及び受賞作の決定について」を議題とします。提案説明を求めます。

生涯学習課長) 〈議案資料に基づき概略説明〉

教 育 長) 説明が終わりました。質疑はございませんか。

浅 井 委 員) 今年は富田碎花展が大々的に明日から行われますね。来年が第30回ですが、その記念の企画として、子どもの詩を募集するようなことも考えていただけるといいなとかねがね思っているのですが御検討いただけませんかでしょうか。

生涯学習課長) 選考委員会の前段階で推薦委員会があり、昨年の推薦委員会などでもそのような御意見もあったのですが、詩を募集するとなりますと、応募作品が他で発表していないものであるかどうかとか、作品内の言葉は他のところから引用・転載されてないかとかのチェックがものすごく大変なところがあります。他市さんでやられたことがあり、その際、大変混乱したと他の委員の方が言われたこともあり、少し難しいのかなということは、そのときの意見ではありました。また、先生には聞いてみたいと思います。

浅 井 委 員) お願いします。

教 育 長) 高額の副賞がついているとなると話は複雑になりますが、例えば、書いた人は全部載せるなど、そこは先生方にお伺いする中で何か考えていただけますか。

浅井委員） 厳密に審査をして、賞をあげるということではなくてもいいと思いますので、関連企画としての位置づけのような感じで、皆さんに少し関心を持ってもらうことも大切かなと思います。

教 育 長 ） 他に質疑はございませんか。

今年度は贈呈式の場所が美術博物館に変わりますが、委員の皆さま方におかれましても、もし時間が許しましたら御参加願いたいと思います。また、セレモニーの仕方も少し一考していただければと思います。

無いようですので、これをもって質疑を打ち切ります。

これより採決いたします。本案は、原案どおり承認することに御異議ございませんか。

〈異議なしの声〉

御異議なしと認めます。よって本案は承認されました。

〈報告第11号採決。結果、承認（出席委員全員賛成）〉

教 育 長 ） 非公開での審議は終了いたしましたので、これより公開いたします。

〈非公開審議 終了〉

教 育 長 ） 閉会宣言